

## 令和6年第2回市議会臨時会 市長所信表明

令和6年8月7日

印西市長就任に際し、市政運営に向けた所信の一端を述べさせていただきます。市長選挙におきまして、市民の皆さまからのご信託を賜り、印西市長として市政運営を担わせていただくこととなりました。

今後の市政運営を通じ、信託を頂いた皆さまへの期待に応えることはもとより、広く市民の皆さまにご信任を得られるよう全力で臨んで参ります。

さて、現在、印西市は大きな転換期を迎えています。

古くからある既存の地域の一部では人口減少が始まっています。

千葉ニュータウン圏に目を転じると、急激な児童数増加の中、子どもたちに寄り添った教育・子育て環境づくりが求められています。特に、過大規模校の状況が継続する市立原小学校の分離新設問題に関しては、早期に方向性を示す必要があります。

同時に、まち開きから40年が経過しシニア世代の皆さまも年々増え続けています。千葉ニュータウン圏の一部地区では、高齢化率が5割を超える状況にあります。

加えて、中長期では、東京を中心とする首都圏でも人口減少の波が迫り、首都圏のベッドタウン間での競争が激しさを増すことが予想される中、職住近接によるまちの価値向上に向け、更なる雇用創出に向けた新たな産業誘致が不可欠です。

市民の皆さまのニーズや価値観も多様化しています。利便性や快適性の維持向上は大前提に、まちの個性や文化的土壌の更なる醸成をはじめ、次世代に向けた「新たな豊かさ」を示していくことも重要です。

印西市には大きな可能性があります。まちづくりの仕事を通じて国内外様々な地域をみてきたからこそ気づくことがあります。豊かな自然と都市との共存、世界の玄関口である成田国際空港と東京との間に位置する抜群の立地、そして、何よりもまちを想う多くの市民の方々がいらっしゃいます。

こうした課題や可能性に正面から向き合い、先人が繋いでくださった想いをしっかりと受け継ぎながら、真にすべての地域と市民の皆さまの今と未来

に寄り添ったまちづくりを進めていく。これこそが、印西市長の責務と考えます。

私が市長選に際して掲げた「未来を“とも”につくる」。これこそが私の市政運営における骨格です。

その中での一丁目一番地は、当然、市民の皆さまです。

まずは、市民の皆さまとの徹底した対話の機会を設けること。これが起点です。「会えるリーダー」として、すべての地域で対話型のタウンミーティングを開催させていただきます。

また、まちづくりは市役所だけのものではありません。複雑多様化する市の課題に対して、市民参加型のまちづくりを進めてまいります。

平成20年、他の自治体に先駆けて印西市市民参加条例が施行されました。

まちづくりの先輩方に伺いますと、活発な市民活動とまちづくりへの市民参加こそが、古くからの印西市の伝統であったと聞いております。

私自身、民間人としてまちづくりに関わる中で、地域、年代、性別、職業を超えて、まちや他の市民のことを思い、様々な活動をされている多くの市民の皆さまを目の当たりにしてきました。また、様々な専門性を持った方々もいらっしゃいます。

今一度、市民参加の在り方を見直し、市民の皆さまとともにつくる、「市民共創型」のまちづくりを目指します。

この際に、決して、忘れてはならないことは、「声なき声に耳を傾ける」ということです。

「本当に困っている方、困難な状況にある方は、声を発することも出来ない」とある市民の方の言葉です。本当に仰る通りです。

全ての市民の皆さまを起点としたまちづくりを進めて参ります。

次に、忘れてはならないのが市議会の皆さまです。二元代表制のもと、相互のけん制が求められることは大前提ですが、議会、首長ともに市民のために働く存在であることは変わりありません。

市民の皆さまの声を最も聞かれているのは市議会の皆さまです。町内会や自

治会をはじめとする地域活動や市民活動などで活躍される方も多数いらっしゃいます。まさに、住民自治を支えて下さっている存在です。

しっかりと、印西市政の両輪として、議会の皆さまと議論をさせて頂きながら、市政運営を進めていく所存です。

また、市政運営において当然に重要となるのが市職員の皆さまであります。

印西市民の皆さまのためだけのために働ける、正職員だけでも 700 名に及ぶ組織。

市職員の皆さまの想いと能力を拓くことが、組織の長として最も大きな使命のひとつであると考えています。

増加する業務内容に対し抜本的な見直しを進めるとともに、多様なバックグラウンドを持つ方々が心置きなく働いて頂ける環境を整備します。

加えて、複雑化する業務に対し職員の専門性向上を図るとともに、外部の専門人材の採用・登用を進めます。

さらに、私自身がキャリアを通じて取り組んできた「公民連携」手法の導入もより積極的に進めて参ります。

もう 1 点、市役所の在り方に関して述べさせていただきます。

印西市はまさに多様です。地域によって状況や特性が全く異なります。

また、デジタル技術の進展や新たな働き方をはじめとする社会潮流の大きな変化も生じています。

私は、各地域の特徴と魅力が生かされ、地域間の交流が生まれる「多極循環型のまちづくり」こそが、これからの印西市に求められていると考えています。

こうした中で、市役所の在り方も「地域に寄り添った分散型の市役所づくり」が必要であると考えています。

支所・出張所の機能強化を進めるとともに、手続きや相談ごと対応などの更なるデジタル化を進めて参ります。

そして、市役所の在り方を論じる際に忘れてはならないのが築 50 年を迎える本庁舎に関してです。先の市長選挙でもこの点を巡って議論が交わされました。

本庁舎の在り方、特に、その立地に関しては、過去の経緯や現庁舎周辺住民の声、また、全市民のニーズを踏まえ、検討することが不可欠です。

また、いちど庁舎が建設されると長期にわたり使用され続けることとなります。将来の地域社会や地方行政の在り方も見据えながら、議論を進めていくことが重要です。

「地域に寄り添った分散型の市役所」とのコンセプトを念頭に、市民の皆さまにも参画いただきながら、多様な選択肢の中から、今後の市役所の在り方に関し検討を進めて参ります。

こうした市政運営を進める上で、まず重要となるのが市長と一体で経営チームを構成する副市長、そして、教育行政の要である教育長であります。

私は、市長選に際し、副市長2名体制の導入を訴えさせていただきました。組織経営において重要なことは、「守り」と「攻め」のバランスです。

まずは、組織の「守り」を固め市政運営の屋台骨を支える1人目の副市長。そして、新たな組織づくりや施策の推進役という「攻め」の市政運営を担う2人目の副市長。

特に、2人目の副市長に関しては、印西市政への理解は前提に、外部の専門的な知見や経験を持つ人材の登用も検討して参ります。

副市長、教育長の選任には市議会の皆さまの同意が必須のものであります。また、副市長2名体制の導入に向けては、条例の改正も必要となります。

市民、そして、市議会の皆さまにご理解賜れるよう丁寧な説明を心がけて参ります。

市長選で「世界モデル」という言葉を掲げさせていただきました。しかし、これはあくまでも市政運営の結果です。

市長の最大の責務は、市民の皆さまの生命と財産を守ること、そして、住民福祉の向上にあります。

全ての市民の皆さまの声に寄り添った、真に市民起点のまちづくりを、愚直に進める。

それを、各政策分野で徹底していく。

そうすることで、結果として、すべての行政分野において、他自治体のモデルとされるような先進的な地方行政を実現していく。

この順番を決して間違えることなく、市民、市議会、市職員などのすべての皆さまと、印西市の「未来をともに作る」べく全力を尽くして参ります。

以上、市長就任に際しての所信の一端を述べさせていただきました。